

## 2023年度第4回渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 会議録

### 1 日時

2023年3月19日（火） 午後1時30分から午後2時30分まで

### 2 場所

東三河総合庁舎 3階 301、302会議室

### 3 出席者

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 構成員

### 4 会議内容

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ（農業水産局農政部農業振興課 野生イノシシ対策室 加藤室長）

- ・野生イノシシの豚熱感染状況について、今年度は2月末時点で19件確認されており、昨年度の28件と比べやや減少傾向。また、今年度は岐阜県と県境を接する自治体において陽性個体が多く確認されている。
- ・アフリカ豚熱という強毒性の家畜伝染病が世界各国で確認されており、国内への侵入が懸念される。当県としても対策を順次とりまとめているが、関係者の皆様には、改めて防疫措置の徹底を各所に呼びかけていただきたい。
- ・議事として、イノシシの捕獲に係る取組状況、生息状況調査結果、今後の取組等について報告させていただくので、率直な意見をいただきたい。

#### (3) 議事（議長：野生イノシシ対策室 加藤室長）

##### ① イノシシ捕獲に係る取組状況について

- ・資料1-1、1-2、1-3、1-4に基づき事務局から説明。

##### 【概要】

- ・2023年度の田原市及び豊橋市における野生イノシシの捕獲頭数は、前年度と比べ増加した（422→631頭）。
- ・2023年度に捕獲された野生イノシシを歯列により年齢査定したところ、1歳以上の成獣の割合は田原市及び豊橋市の両市において約5割程度であり、近年、この割合は横ばいの傾向にある。
- ・田原市及び豊橋市において捕獲された野生イノシシのうち、妊娠出産が可能と考えられる体重30kg以上のメスの捕獲効率について確認したところ、例年7～12月頃に捕獲効率が低下し、1～3月に最も捕獲効率が高くなっている事が分かった。また、1～3月に捕獲されている30kg以上のメスは、およそ半数がくくりわなによる捕獲であったため、当該時期にくくりわなの努力量を増やす事で、春期の再繁殖を抑える効果が期待出来る。

【質疑・意見等】

(有識者) 資料1-2について、1~3月に30kg以上のメスが多く捕獲されるとの事だが、田原市や豊橋市では指定管理鳥獣捕獲等事業や有害鳥獣捕獲などの事業ベースで捕獲を行っていると思う。その中で、この時期にどれほど捕獲努力量を増やす事が出来るかが重要となると思うが、捕獲努力量を増やす手段はあるか。

(事務局) 渥美半島の有害鳥獣捕獲は箱わながメインであり、30kg以上のメス捕獲に有効であるくくりわなの使用はあまり進んでいない。指定管理鳥獣捕獲等事業については、この時期の捕獲努力量を増加出来るよう調整したいと考えている。

(有識者) これだけはっきりとデータで示されているので、この時期の捕獲が根絶に向けて重要というのは明らか。市及び猟友会と連携して捕獲努力量を強化していく必要がある。

② 渥美半島野生イノシシ生息調査(速報)について

・資料2に基づき事務局から説明。

【概要】

- ・渥美半島において実施した自動撮影カメラ調査(静止画)の結果から、山中でわなによる捕獲圧を避けて生息していると考えられる個体群が確認された。
- ・フィールドサイン調査による掘り返し密度結果と、RESTモデルによる推定生息密度との関係から渥美半島全体の野生イノシシ生息頭数を推定したところ、昨年度よりも生息頭数が減少していると推察された。

【質疑・意見等】

なし

③ 根絶の実現可能性の検討について

・資料3に基づき事務局から説明。

【概要】

- ・根絶を達成するためには、防除手法が全ての個体に適応可能、死亡率が新規個体侵入率(繁殖率)を上回ること、再侵入の可能性がゼロなどの条件を満たす必要がある。
- ・現段階でこれらの条件を満足しておらず、根絶の実現は難しい状況。
- ・渥美半島は養豚の一大産地であり、アフリカ豚熱の脅威も迫っていることから、野生イノシシの捕獲強化は継続し、個体数コントロールが必要。

【質疑・意見等】

(有識者) 先ほどの指摘とも関連するが、根絶に必要な条件のうち、「死亡率が新規個体侵入率(繁殖率)を上回ること」については、繁殖可能な

メスを捕獲する事が重要。田原市では30kg以上のメス捕獲割合が他地域に比べ低いとの事だが、資料1-1を見ると、くくりわなによる捕獲が成獣の捕獲において最も効率が良い。田原市の有害鳥獣捕獲は箱わながメインと思うが、くくりわなを用いた捕獲圧の強化は県による指定管理鳥獣捕獲等事業で行っていくのか。

(事務局) 県として直接指示出来る事業は指定管理鳥獣捕獲等事業となるので、そこを強化していきたい。有害鳥獣捕獲では止め刺し時の安全確保等に課題があるため、田原市や地元狩猟団体と捕獲圧を強化出来るよう協議していきたい。

#### ④ 今後の取組について

- ・資料4に基づき事務局から説明。

##### 【概要】

- ・2024年度の渥美半島における指定管理鳥獣捕獲等事業では、くくりわな（山中を含む）を中心に実施予定。
- ・新規捕獲従事者を対象に、現地研修を実施予定。

##### 【質疑・意見等】

なし

#### ⑤ その他

##### 【連絡事項】

- ・世界的にアフリカ豚熱という家畜伝染病のまん延が問題となっている。隣国韓国の中でも、日本に対して空路及び海路での航路が存在する釜山市において、2023年12月以降、立て続けに野生イノシシのアフリカ豚熱陽性が確認されている。いつ日本に侵入してもおかしくない状況であり、国は、各都道府県に対し防疫体制の整備を指示している。万が一、県内で発生した場合、畜産施設で豚熱や鳥インフルエンザが発生した場合と同様に、本庁及び地域合同の対策本部の設置が必要となる。現在、県の対策要綱案を作成しているが、出疫等対応方法についても検討しているところ。関係部署の連携が必要である事から、ご理解とご協力をお願いしたい。
- ・協議会構成員のうち、池田特任准教授については今回の協議会をもって退任となる。
- ・次回の協議会は6～7月頃に開催したいと考えている。